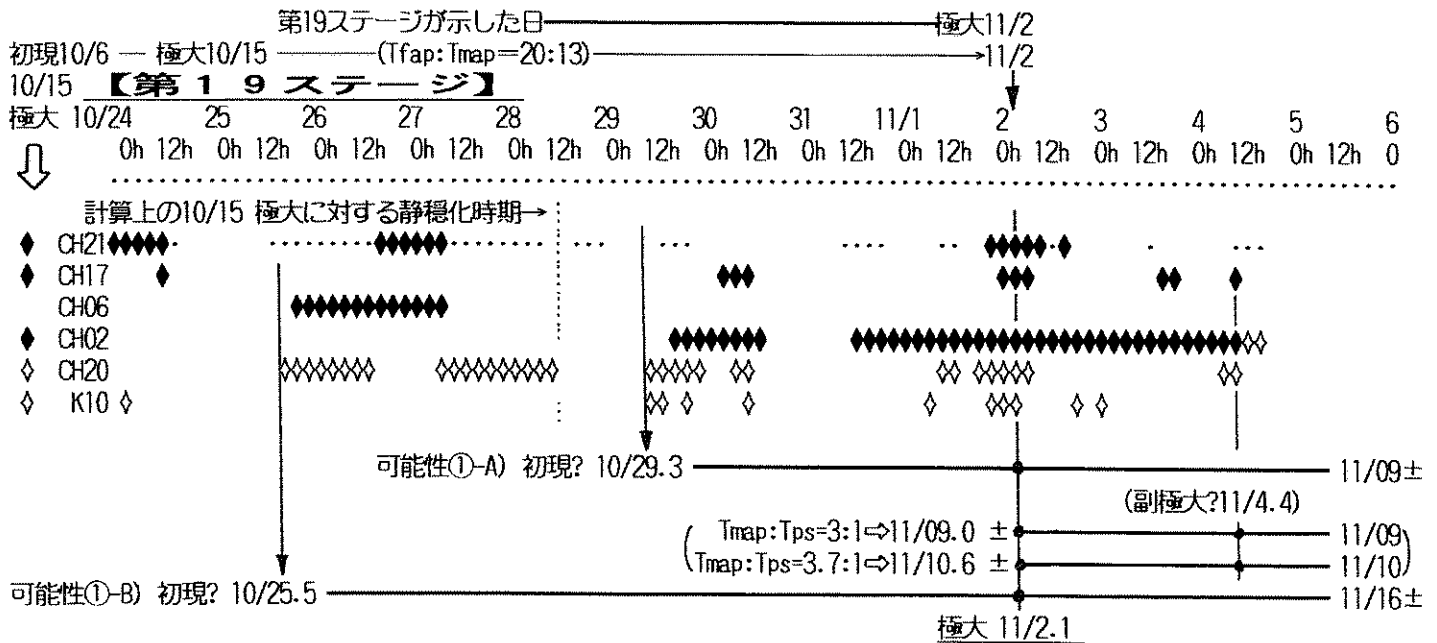


原稿校了後の前兆変化について

八ヶ岳南麓天文台 Yatsugatake South Base Observatory 山梨県北杜市大泉町谷戸8697-1 研究室 FAX 0551-38-4254
Astronomical Observatory: SINCE 1985 Earthquake Forecast Observation & Research: SINCE 1995

No.1778 長期継続前兆現況報告 11/5 の可能性は低い 11/7 終息の場合は11/9 可能性



11/2極大のみの場合は11/9±又は(11/16±の可能性)・今後更に極大が出現する可能性も有⇒この場合は今後の観測が必要

No.1778長期継続特殊前兆(2008.7 から出現継続の観測歴上最長継続前兆)は、11/2に現在ステージの極大が観測されました。上前兆出現状況簡易表示図でも明らかです。

前続報にも報告しましたとおり、11/2極大の後に幾つも極大が出現する場合は、今後の観測が必要となります。しかし11/2極大のみである場合は、11/2極大に対する初現が判れば、現時点で現ステージが示す日(地震発生日である可能性有)が計算できることとなります。前情報にも記したとおり、考えられる初現は、現在のCH02糸状特異が出現した10/31午前と10/29又はCH06糸状特異が主で考えにくいですが、10/25.5の3種の可能性がありました。

さて、10/31が初現が正しい場合は、11/5発生が計算でき、

その場合は、本日11/4昼過ぎには前兆が終息することが計算できます。本日11/4 13 時頃より完全糸状態特異だったCH02の糸状態が終息しました。但し、弱い不規則変動が現れて、正常基線ではなりません。その他CH21は、ほぼ正常基線。CH17もCH20も正常基線で、高知観測点のK10も静穏基線です。

CH02が13時に糸状特異を脱した時点で、完全静穏基線に戻れば明日11/5発生となりますが、あくまでも完全静穏基線ではありませんので、明日11/5発生の可能性は低いとの見解です。

CH21は数日前からほぼ正常基線を記録し続けており、現状CH02の弱い特異状態のみとなっていることから、数日内には静穏化する可能性も考えられます。

新たな前兆出現も無いことから、今後更に極大が出現する可能性は考え難い様に見えます。現状11/2極大のみと仮定した場合は、11/9±発生の可能性が考えやすいこととなります。

仮に11/9発生の場合には、現在継続中のCH02の弱い特異等が11月07日午後に静穏化することが計算で推定されます。

11/7午後に静穏化した場合は11/9発生。11/8時点で前兆継続の場合は16日±の可能性が残ります。11/7午後前兆が終息するか、継続するか、又は考え難いですが、更に極大が出現するか観測を続け、続報させて戴きます。

◆推定領域：右図点線領域内付近＝大枠推定領域
太線領域内付近＝可能性考え易い推定領域

◆推定規模：M7.8 ± 0.5

◆推定時期：CH02特異終息を観測した後、推定。

可能性1) = 11月9日(又は16日±2)

可能性2) = 今後更に極大が出現した場合は、今後を観測して推定予定。

◇推定地震種：震源浅い陸域日本列島の地殻地震

◇推定発生時刻：午前9時±1(又は午後6時±3)

